

第 22 回日亜経済合同委員会 概要報告

1. **開催日時**：平成 22 年 1 月 15 日（金）午前 9 時 30 分～午後 1 時 30 分
2. **開催場所**：東京商工会議所「国際会議場」（東商ビル 7 階）
3. **出席者**：総勢 220 名（一般参加者含む）
〔日本側〕 佐々木幹夫会長（三菱商事(株)会長）はじめ 173 名
〔亜国側〕 アンヘル・マチャード会長（グリエンス社 社長）はじめ 47 名

4. 総括的概要

世界経済がアジアを中心に回復への動きを見せる中、今次合同会議は前回のブエノスアイレスでの合同会議から 3 年、東京での開催は 13 年ぶりの開催となった。亜国側からエウルネキアン亜国商業会議所 (CAC) 副会頭、メンデス亜国工業連盟 (UIA) 会長をはじめ、亜国を代表する多くの経済人が出席した。また、日本の外務省主催「アジア中南米協力フォーラム (FEALAC)」の第 4 回外相会合に参加のため来日したタイアナ亜国外務・国際通商・宗務大臣に出席いただき、「日亜関係の発展に向けて」と題して基調講演をいただいた。G20 のメンバー国であり、近年成長が目覚ましい南米第 2 の経済大国として注目される中、亜国の最近の状況をできるだけ多くの方々に紹介するため、今次合同会議はオープンセミナー形式で開催した。



開会の様子

5. セッション別討議概要

(1) 開会



佐々木会長

マチャード会長

岡村会頭

最初に、佐々木会長が今回亜国から訪日された方々に対して、歓迎の言葉を述べた。マチャード会長は、多くの出席者を得て実現された今次会合開催に際しての謝意とともに、亜国において、ビジネスに適した環境の構築を目指して貢献していくと述べた。岡村日商会頭は、日本経済の現況を紹介した後、今次合同会議が日亜双方に実りあるものとなるよう期待する旨、祝辞を述べた。

(2) 基調講演「日亜関係の発展に向けて」

タイアナ外務大臣は、「亜国は大きな努力により自国の危機的な時期を乗り越え、近年、南米屈指の成長を遂げている。2008 年～09 年に起きた世界金融・経済危機について、亜国はそれほど強い危機的な状況には陥らなかった。債務問題については、現在、ホールドアウトした方々との再交渉や、パリクラブのリスケ交渉の準備が進められており、これらの課題が解決に至ることを望んでいる。また、日亜経済関係の成長のポテンシャルは非常に高いと考えており、亜国から日本への加工食品の輸出、あるいはチリとアルゼンチンを結ぶ貨物鉄道用トンネル建設事業への投資などは他のアジア大洋州諸国も含めて経済関係の強化が期待される。亜国は技術大国である日本との関係にとても注目しており、日亜両国の友好、信頼関係をさらに強化し、将来にわたって多くのことを日本と一緒に構築していきたい」と述べた。



タイアナ大臣

(3) 全体会議

佐々木会長が議長、エウルネキアン亜国商業会議所副会頭が共同議長を務めた。

まず、キアラディア外務副大臣から、亜国経済の現状と世界経済の潮流、日亜経済関係の強化について説明があった。地上デジタル放送の導入で日本方式を採用したことは、日本との関係強化の意思の表れである。他方、ホールドアウトの問題については亜国の努力を評価いただき、この問題解決が日亜関係の再活性化に資することを理解いただきたい、と述べた。続いて、柳田・日本貿易振興機構理事は、同機構が昨年夏に実施した調査結果をもとに、日本企業の亜国観や両国関係緊密化に向けた展望について説明した。メンデス亜国工業連盟会長は、本合同委員会は設立して40年以上の歴史を持つが、亜国工業界を代表する私たちの参加は初めてであり、今後、日亜両国の工業界の橋渡しを務めたいと述べた。井上・トヨタ自動車(株)常務役員は、中南米および亜国の自動車市場、亜国における同社ビジネスの展開、亜国政府に期待する支援について述べた。特に、排気ガス規制を進める上で、それに見合った燃料供給環境の整備を求めた。最後に、エウルネキアン亜国商業会議所副会頭は、ブエノスアイレスとチリのバルパライソを結ぶ「貨物鉄道用アンデス横断トンネル建設事業」を説明し、日本からの積極的な投資に期待を述べた。



全体会議の様子

(4) 日亜経済委員会主催昼食会（於：東京會館 11階「エメラルド」）

亜国側からタイアナ外務大臣、マチャード亜日経済委員会会長、エウルネキアン亜国商業会議所副会頭、メンデス亜国工業連盟会長ほか22名、日本側から佐々木会長はじめ21名が出席し、和やかに懇談が行われた。

6. その他



岡村会頭、タイアナ外相、佐々木会長

(1) タイアナ外務大臣と岡村日商会頭、佐々木会長の面談

合同委員会の開会に先立ち、タイアナ外務大臣はじめ亜国側主要メンバーと岡村日商会頭、佐々木日亜経済委員会会長との面談が行われた。岡村会頭から、今回会議が日亜関係再活性化の契機となることの期待が述べられ、タイアナ大臣からは、日亜両国の経済規模に比較して両国の貿易・投資額はまだ少なく、両国経済関係は様々な分野で緊密化の可能性を持っていると強調された。

(2) アルゼンチン・ビジネス・セミナー（時間：午後2時～4時30分 場所：「国際会議場」《東商ビル7階》）

合同委員会に引き続き、当委員会主催によりアルゼンチン・ビジネス・セミナーを関係団体（日本・東京商工会議所、米州開発銀行アジア事務所、日本貿易振興機構、海外投融資情報財団、国際連合工業開発機関、アルゼンチン共和国大使館）の後援を得て開催した。約140名と多数の参加者を得たセミナーでは、4人の亜国側スピーカーから、亜国の「有望投資分野」「農業・フードセキュリティ」「貿易投資銀行の活動」「鉱山の未来性」について、プレゼンテーションが行われた。亜国の資源や食料ビジネスについて活発な質疑があった。



セミナーの様子